

王であるキリストと「み国」の到来

長与教会勉強会 2024/11/17

年間節最後の主日に「王であるキリスト」を祝い、世の終わりに再臨するイエスを思い起こします。世間は世の終わりを人類滅亡と考えますが、キリスト教は、終りではなく「新たな始まり」と教えます。世の終わりに王であるキリストが、裁くために再び来られ（主の再臨）ます。最後の審判で悪の支配を終わらせ、「神のみ国」が完成し、王であるキリストが統治する至福の楽園になるでしょう。でも今は「王であるキリスト」の姿を見た者は一人もいません。私たちが知っているキリストは「苦しむしもべ」の姿です。これが「救い主」であり、神の愛の姿です。王であるキリストは神の正義の姿であり、「世の終わりに」に実現します。今は私たちが一人も滅びないように裁きを遅らせ、改心を待っておられます。

その「み国」は不完全ながら始まっています。イエスは 2000 年前「苦しむしもべ」の姿で、裁くためでなく「救う」ために来られました。このイエスを救い主として迎え入れ人に救いが訪れます。「み国の種」がその人の心に落ち、そこに「み国」が始まるのです。すると、イエスは人を内側から治めます。そうして「み国の種」が成長して実を結べば、天国に入ります。主の祈りで「み国が来ますように」と祈るのは、私の心に「み国」が来るように願っているのです。「み心が地にも行われ」るように祈るのは、私が神のみ旨を行えるように主に願うのです。自分の力だけでは実現できない神の業ですから。

また、イエスは「神の国は、あなたたちの間にある」と教えています。私たちが互いに愛し合う時、そこにイエスが現存します。イエスがいるところに「み国」もあるのです。神は愛です。愛があるところにイエスが共にいて、イエス・キリストが働き、そこに「神のみ国」を創り出しています。神の国は愛の国ですから、愛がない人は誰も入れません。キリストの再臨まで、イエスは私たちと共に、私たちを通して今も隠れて働いておられるのです。

「神の姿を見せてくれたら信じる」と言う人がいますが、それは「王であるキリスト」を見たいということです。その時は、「救われる時」ではなくて、「裁かれる時」です。神を見たいなら、神はもう来ています。「苦しむしもべ」の姿で。今は「救いの時」です。改心の時です。典礼は世の終わりを先取りして「王であるキリスト」を祝います。それは裁きを思い出すためです。必ず来るので、目覚めて準備するように促しています。「苦しむしもべ」の姿の中に、私たちへの憐みと愛が隠されています。善意の人だけに見えます。神を見たいなら、悪を捨て、善意の人になればいいのです。■

* 2024/11/24「王であるキリスト」説教(文責:小寺神父)